



被災地のいち早い復旧へ

TEC-FORCEと災害対策用機械の活動



とは

TEC-FORCE(緊急災害対策派遣隊)とは、地震、津波、台風などの自然災害が起こった時に、いち早く災害現場に出動し、被災した自治体の情報収集・連絡、調査、復旧を支援します。

沖縄総合事務局の中で、災害対応の専門技術を有する職員を主体に構成されています。

沖縄県内における自然災害の他、全国で自然災害が発生した場合にも出動します。

リエゾンとは、Liaison、「つなぐ」という意味のフランス語で、被災自治体と沖縄総合事務局の間で、連絡調整を行う職員を示す。



TEC-FORCEの派遣様子

活動内容

TEC-FORCEは、リエゾンが集めた被災地の被害情報や支援ニーズをもとに派遣され、調査や応急復旧活動を行います。現地では実際に被災現場に入り、危険な箇所の調査や安全性の確認を行います。

また、住民の方から、困っていることやしてほしいこと等の支援ニーズの聞き取りも行います。

～自治体への主な応援・支援メニュー～

- ①防災ヘリコプターからの映像配信および被災地の映像提供
- ②災害対策用機械(照明車、排水ポンプ車など)、通信機器(衛星通信車、Ku-satなど)、資材(応急組立橋など)の貸付や派遣
- ③TEC-FORCE(緊急災害対策派遣隊)等の被災調査支援、被災建築物応急危険度判定
- ④災害応急・復旧工法の技術的助言や支援など



リエゾンによる連絡調整の様子



被災状況調査班(砂防)の様子
(土砂災害危険箇所点検)



被災状況調査班(建築物判定)の様子
(応急危険度判定)



住民の支援ニーズを聞くTEC-FORCE隊員



被災した自治体の首長へ調査結果を報告

沖縄総合事務局の災害対策用機械

災害時には、被害情報の調査、応急復旧活動を行うために様々な災害対策用機械を活用します。

被害情報の調査



①防災ヘリコプター



②衛星小型画像伝送装置(上)
衛星通信車(下)



本県のように離島が多い地形や、立ち入ることが難しい危険な現場では、災害対策用機械を用いて調査します。

- ①防災ヘリコプターを用いて上空から調査します。
- ②現場の被災状況は衛星小型画像伝送装置、衛星通信車により、役場などの離れた場所でも確認することができます。

沖縄総合事務局の防災ヘリ出動

平成27年7月に沖縄本島を襲った豪雨の際や(左図)、同年9月に沖縄に台風21号が接近した際に(右図)、防災ヘリコプターによる被災状況の把握が行われました。



一般国道331号東村平良地区



与那国町比川地区

応急復旧活動



①排水ポンプ車



②照明車



③応急組立橋



④災害対策本部車

被害の拡大や二次災害の防止のために、様々な災害対策用機械を用いて作業を行います。

- ①大雨等で土地が冠水してしまった場合は、排水ポンプ車で排水します。
- ②夜間や照明が必要な場合は照明車で現場を照らすことができます。
- ③被災地への緊急輸送路となる道路や橋が崩壊している場合は応急組立橋で仮橋を架けることができます。
- ④自治体の庁舎、役場等が被災した場合は、設備を備えた災害対策本部車で、災害対策本部機能を補います。

沖縄総合事務局の照明車、防災ヘリコプターが活躍

平成24年8月の台風15号による大雨により、大宜味村で土砂災害が発生しました。民地より流入した泥水の防止対策工事に照明車が活用され(左図)、防災ヘリコプターによる調査も行われました(右図)。



照明車



防災ヘリコプターから撮影された映像